

福島の子どもたちを茨城に招待

「福島の子ども保養プロジェクト in いばらき」



10月に行なわれた保養プロジェクトにて。

いばらきコープは、福島県の子どもたちとその家族を茨城県に招待し、「福島の子ども保養プロジェクト in いばらき」を開催しました。企画は、10月27日～28日、11月10日～11日、24日～25日の3日程で開催し、合計29家族95人が参加しました。

企画づくりには、いばらきコープの組合員が参加し、いばらきコープ産地での収穫体験や観光施設の見学、筑波山ハイキングなどが組み込まれました。

また、今年は、国連が決めた国際協同組合年でもあり、茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合、中央労働金庫といった県内の他の協同組合と協力しての開催となりました。

参加者からは「楽しかった」「子どもたちが外で走り回っている姿を見ることができてうれしい」「(ツアーの中で行なった) グラスキャンダルづくりは思い出になります」などの声が聞かれました。



「大きなにんじんとれた〜!」収穫を楽しむ子どもたち。



陶芸にも親子で挑戦。

約 300 人が保養プロジェクトに参加

東京ディズニーランド、キッザニア東京で保養プロジェクト開催



キッザニア東京の「建設現場」でお仕事体験を行なう参加者。「楽しかった!」。

福島県生協連では、10月27日～28日、福島の子ども保養プロジェクト特別企画を行ないました。福島の中通り地区・浜通り地区在住の親子計306人がバス9台に乗り込み福島を出発し、1日目は東京ディズニーランド、2日目はキッザニア東

京で楽しい時間を過ごしました。

福島県では、学校・公園などの除染は行なわれていますが、それ以外の場所では進んでおらず、子どもたちのほとんどは外で遊んでいません。その光景に、県外から来た人は驚きます。福島県生協連の根本喜代江さんは、「驚かれるたびに、そういった情報が県外に伝わっていないということを実感します。それが悔しいです」と言います。

子どもたちを見守り、支え続けるためにも、保養プロジェクトの存在は大きいですが、9月に行なわれた「福島の子ども保養プロジェクトシンポジウム」^{*}で出された意見の中には、「参加した子どもたちに無理

のない企画でなければいけない」という課題も提起されました。保養プロジェクトの目的を今一度考え、支援する側と支援される側が心を沿わせながら取り組むことが、今後求められています。

^{*}シンポジウムについては、本誌22号にて紹介しています。



大型バス9台もの「保養プロジェクト」の企画は、今回が初めて。